

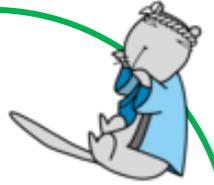


三田ヶ谷公民館だより

令和 7年 2月 1日
発行 三田ヶ谷公民館
TEL 565-0040



三田ヶ谷公民館文化祭のお礼



1月24日(金)～26日(日)の“三田ヶ谷公民館文化祭”は、多くの方々のご来館をいただき、盛大に開催されました。



♪ 3日間で約510人の方が公民館にお越しくださいました♪

みなさまのご協力、誠にありがとうございました！！

※紙面に限りがあるため、すべての写真を掲載できませんでした。ご了承ください。

裏面もご覧ください

グラウンド・ゴルフ初打大会結果

【1月19日開催】

- ◎優勝 関口 雅博 様
- ◎準優勝 鈴木 定雄 様
- ◎第3位 赤坂 賢二 様

2月のはつらつ教室

日時：2月28日(金) 10時～11時
持ち物：タオル、飲み物
場所：三田ヶ谷公民館 和室
問合せ：高齢介護課

※2月の健康運動教室はお休みです

2月の休館日 毎週火曜日、12日、23日、24日

「いいでえー！！三田ヶ谷！ ～歴史と文化～」

(第9回 速水義憲とムジナモ)

令和7年1月、「埼玉県レッドデータリスト」で“野生絶滅”とされていた羽生市のムジナモは、懸命な保護活動により、安定した生育と増殖が見られることから「絶滅危惧ⅠA類」への移行が決定しました。つまり、野生復帰です。埼玉県内では初であり、全国的にもまれな事例となりました。

そもそも、羽生ではどのようにしてムジナモが発見されたのでしょうか。発見者は速水義憲(はやみずよし)という人物です。教員でもあった速水氏は、教育の観点から植物研究をはじめ、高柳悦三郎氏の指導のもと植物採取を行います。すると、ある日水草が目にとまります。「大正十年の九月中頃、何か変わったものでもと、平島耕地西北隅の堀ばたに降りて水面をみていた私は、一間ほど前の方に三寸くらいのみなれぬ水草が浮いているのをみつけた」と速水氏は記しています(「羽生市に於けるムジナモ発見の動機」)。これがまさにムジナモの発見でした。高柳氏に報告すると、「とうとう君が発見してくれたか」と大変喜んだそうです。

その後、羽生各所でムジナモを確認します。しかし、除草剤などによって次第に姿を消していくムジナモに危惧した速水氏は、創立された「羽生市むじなも保存会」の会長を務め、保護増殖活動に尽力したのでした。

昭和41年の国の天然記念物に指定後も、ムジナモは厳しい環境下にありました。地元の方々をはじめ、多くの人々が諦めることなく保護活動に尽力した結果、ムジナモは100万株を超えるほどに増殖が見られるようになりました。もしいま、速水氏が宝蔵寺ムジナモ自生地と保護活動に携わる人々を目にしたら何を思うのでしょうか。年が明け、ムジナモの野生復帰という羽生市の快挙は各メディアに大きく取り上げられました。宝蔵寺沼ムジナモ自生地は一つの区切りを迎え、新たな章が幕を上げたと言えるでしょう。



羽生でムジナモが発見されたのは、平島耕地でした。現在の清掃センターあたりだったということです



公民館主事・高鳥